

平成30年を振り返って (吉と災い)

小樽市医師会
小樽市立病院

信野祐一郎

突然の原稿執筆依頼で、文才のない小生にとって大変気が重いのですが、新年を迎えて小生の平成30年を振り返ってみました。

まずは元日のこと、年末から来訪していた長男の嫁と孫が帰るので駅まで送ったあと、白石神社に初詣に行きました。おみくじを引いたところ、大吉でした。もちろんすべてにつき良いことが書かれておりました。しかしその後転倒し、右側腹部を強打して激痛がありました。2日、3日と疼痛は強まる一方で、4日の仕事初めにCTで肋骨骨折を確認いたしました。幸い血気胸になっておらず、災いなるも吉だったのでしょうか。

4月よりは大学医局の厚い人事のご利益から、泌尿器科が3人体制から4人体制となって殺人的業務体制から開放されたことは大吉でした。お蔭をもって副院長業務も可能となりました。毎年お盆時期に夏休みをとっていたのですが、今年は長女の身内だけの結婚式を10月1日に沖縄で執り行う予定であったので、その前後に遅い夏休みをとることにしておりました。大行事も近づいていた9月6日。前の晩JRの遅れから札幌へは帰らず借りている部屋に泊まっておりました。3時頃地震で目覚めると突然の停電、自宅に電話して妻の無事を確認後、懐中電灯片手に病院に出勤しました。真っ暗なせいか星がとともきれいでした。こんなに星のきれいな空は、昔かなやま湖でキャンプしたときに見た以来のものでした。到着後、災害対策副本部長としての業務に就きました。地震に続くブラックアウトは大きな災いでしたが、小樽に泊まっていなければ病院にも行けなかったのでしょうかから、前日の小樽泊は吉でした。

さていよいよ10月1日予定の結婚式で、9月29日に沖縄へ出発の予定でしたが、この日台風24号が沖縄直撃で、翌日30日の出発に変更しました。30日は台風が四国から東京へ向かって接近してきており、千歳からまだ台風の来ていない羽田乗り換えの予定でした。大阪在住の長男夫妻も直接那覇便は飛ばないため、伊丹→羽田→那覇の予定として羽田で合流しました。しかし羽田→那覇便が羽田到着後、突然欠航を決定してしまいました。この日に着かなければ娘夫婦も一緒でしたので新郎新婦も到着できず、他の親戚は別便で出発済みのため、主役のいない結婚式になってしまうところでした。羽田空港カウンターでは伊丹に飛んで、翌朝1便で那覇に向かって

はなどと勧められましたが、それでは間に合いません。あれこれ探したところ、羽田→福岡便は欠航になっておらず、福岡→那覇便にも接続することに気づきました。羽田空港カウンターでは1便あとの福岡便を勧められましたが、長男の押しで直近の便をとり、空港内でスーツケースを押しながら皆ダッシュで移動し、何とか間に合い福岡に到着できました。案の定、次の福岡便はその後欠航となっております。沖縄で夕食の予定で予約しておりましたがキャンセルし、福岡空港での博多ラーメンとなりました。その後那覇便は無事離陸し、那覇に到着することができました。沖縄では台風の影響で停電となっており、またしても停電に悩まされるのでした。ホテルは自家発電で大丈夫でしたが、教会は自家発電がなく、台風一過の好天猛暑の中での式となりました。海の見える大きな窓の教会で照明はなくても問題ありませんでしたが、エアコンがつかないため、バージンロードのエスコートは汗だくでした。それでも沖縄の結婚式はネクタイなどいらぬ「かりゆし」(めでたいという語源の沖縄版アロハシャツ)でOKだったので助かりました。

無事結婚式が済み、引き続き人生初の沖縄旅行を楽しむ予定でした。しかし南方で停滞していた台風25号がおもむろに沖縄めがけ接近してきており、沖縄では1週間に2度目の台風直撃でした。直撃しそうな宮古島予定を変更し、石垣島へ渡りました。嵐のため一日を無駄にホテルで過ごした後、帰りの便を心配しながら翌日から無事石垣島観光ができました。一番印象に残った絶景は川平湾でした。ハブクラゲのための遊泳禁止が美しさ保持に役立っているのでしょうか。幸いタイミング良く台風25号を追いかけられるように石垣→羽田→新千歳と帰ることができました。まさに災いと吉の繰り返しの1年でした。